

春爛漫 桜の便りに笑顔咲く

3月21日から4月5日に掛けて、市内各地の桜の名所で「桜まつり」が開催され、民謡や楽器演奏、ダンスや鉄砲隊の演武、ゲーム大会やもち

投げなどを楽しむ行楽客でにぎわいました。

取材に
撮影の
桜はこ



三島公園桜まつり



城山公園桜まつり



すすきヶ原入野公園春まつり



向山公園桜まつり



本紙上で紹介できなかった記事や写真は、ホームページ「まちの話題」に掲載しています



手漉き和紙に決意を込めて 紙乃國入庁式で決意表明



4月1日、40人の新規任用職員たちは、それぞれの決意を揮毫し、手漉き和紙を携えて、入庁式に出席しました。

日本一の紙のまちを象徴する「紙乃國」と冠した入庁式では、新規任用職員に紙のまちのセールスマンとしての自覚を持つてもらうため、市内にある3つの工房で漉かれた和紙が、辞令書や決

意表明の半紙として使用されました。

新規任用職員を代表して抱負を述べたのは、市民部国保医療課に配属された井川 空さん。「市民の方々に安心感や親しみやすさを持っていただけるよう笑顔を大切に、皆さまから信頼される職員になりたいです」と「笑顔」の2文字を掲げました。



迫力の書道パフォーマンス 青柳美扇さんが5度目のアンバサダー就任



令和4年4月の就任以来、さまざまなメディアイベントで書道パフォーマンス甲子園の魅力を発信している書道家・青柳美扇さんが、5度目のアンバサダーに就任しました。

4月1日に行われた就任式では、迫力ある書道パフォーマンスを披露し、5年目に懸ける意気込みを力強く表現しました。

春の陽気の下で笑顔行き交う しこちゅーまんなかフェスが大盛況



3月21日と22日の2日間、しこちゅーまんなかフェスが開催されました。グルメや雑貨が並ぶマルシェ、中学生や高校生による演劇、人気映画の上映会やファミリーコンサートなど、子どもから大人まで誰もが楽しめるイベントは、連日多くの来場者でにぎわいました。

新宮に春の訪れを告げる 塩塚高原で山焼きを実施



3月22日、新宮の春の風物詩「山焼き」が新宮町上山の塩塚高原で行われました。

午前8時45分に山頂に放たれた炎は、地元消防団が警戒に当たる中、約2時間掛けて19ヘクタールを焼きました。焼け跡から芽吹いた命は、やがて山肌を緑色に染め、秋には黄金色のススキが観光客の目を惹きつけます。

暮らしたまちを発展させた銅山川疏水 疏水感謝祭で先人の遺徳を偲ぶ



3月29日、本市の産業の発展に寄与し、日本一の紙のまちの礎を築いた銅山川の分水事業をたたえる疏水感謝祭が、戸川疎水公園(上柏町)で行われました。

上柏公益会(片岡晶会長)による祭事に、今年も多く関係者や市民が参加し、先人の遺徳を偲ぶとともに、まちを支える水の恵みに感謝を表しました。



子どもたちの学びを応援 宇摩法人会が今年も教育用品を寄贈

3月17日、公益社団法人宇摩法人会（篠原聡一会長・写真中央右）から、市内の保育施設や小・中学校に絵本や紙芝居、スマートフォン用三脚などが寄贈されました。

同会による寄贈は平成21年度から毎年続けられており、篠原会長は「子どもたちの学びや成長に役立ててほしい」と話しました。



紙への愛着を育みたい （株）ゴークラが今年も自由画帳を寄贈

3月13日、株式会社ゴークラ（望月康平代表取締役）から、「遊びを通じて紙への愛着を育んでほしい」との思いを込めて、市内の保育園などに通う園児へ自由画帳1320冊が寄贈されました。

同社による寄贈は平成14年度から毎年続けられており、表紙のデザインは三島高校の生徒が手掛けています。



伊予土居ライオンズクラブ 太陽の家に空気清浄機を寄贈

伊予土居ライオンズクラブ（岸良一会長）は、地域に密着した奉仕活動を行っており、今年で結成50周年を迎えました。

3月29日、記念事業の一環として、地域の福祉向上を願い、今年2月に下柏町に移転新築した障害児入所施設「太陽の家」に、空気清浄機3台が寄贈されました。



龍翔産業(株) 龍越商事(株) 商通(株) 小・中学校に教育用品を寄贈

3月23日、土居町上野で再生資源回収業などを営む龍翔産業株式会社（岡本龍翔代表取締役社長・写真中央右）など3社から、関川小学校と土居中学校に液晶視力計など28点が寄贈されました。

岡本社長は、「教育環境を整えることで、お世話になっている地域の皆さまに恩返ししたい」と語りました。



安心と安全を守る決意を胸に 自衛隊入隊予定者が表敬訪問

3月18日、4月から自衛隊に入隊する4人の若者が大西市長を表敬訪問し、責務に対する意気込みを伝えました。国の平和と安全を守りたいと自衛官を志した若者が日々の訓練と学びで心身を鍛え、立派な自衛官となることを期待しています。（13ページに関連記事）

写真右から 谷希龍さん（高知高校卒）、谷吹希さん（川之江高校卒）、河野瑞希さん（同）、近藤誠人さん（土居高校卒）



高齢者の安心な暮らしを支える 清水防災が住宅用火災警報器を寄贈

4月13日、有限会社清水防災（長野大嗣代表取締役）から、「安心して暮らせる環境づくりに役立ててほしい」との思いを込めて、市内に住むひとり暮らしの高齢者のために、住宅用火災警報器100個が寄贈されました。

同社による寄贈は令和3年度から毎年続けられています。

本紙上で紹介できなかった記事や写真は、ホームページ「まちの話題」に掲載しています



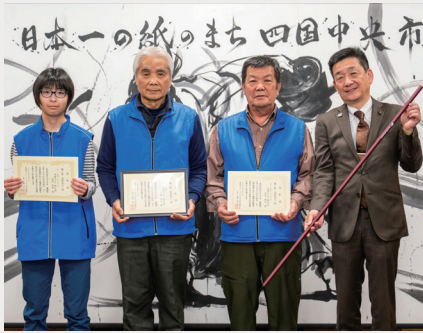
※所属や学年などは取材時のものです

祝 2年連続で最優秀選手に選出
テニス三好慧さんが喜びの報告



日本プロテニス協会が主催する身体能力の高い選手を発掘する全国大会で、リアンテニスチーム（金生町山田井）に所属する三好慧さん（中曾根小1年）が、2年連続で最優秀選手に選ばれました。3月18日に市役所を訪れた三好さんは、「憧れの錦織圭選手のようにになりたい」と、将来の目標を語りました。

祝 県スポーツウエルネス吹矢チーム対抗戦優勝
選手3人が喜びの報告



県スポーツウエルネス吹矢協会愛媛やまじ風支部に所属する3人が、3月7日に東温市で開催された「県スポーツウエルネス吹矢チーム対抗戦」で見事優勝を果たしました。3人は4月2日に市役所を訪れ、優勝の喜びを語り、更なる飛躍を誓いました。

写真右から 武村健司さん、宮崎邦宏さん（支部長）、坂東実さん（川之江北中2年）

祝 世界ジュニアゴルフ選手権の出場権を獲得
藤原諒星さんが日本代表選抜で優勝



3月に滋賀県で開催されたPGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会西日本決勝で、藤原諒星さん（川之江北中1年、レオマ高原ゴルフ倶楽部所属）が、見事優勝を果たしました。藤原さんは4月13日に市役所を訪れ、7月にアメリカで開催される世界ジュニアゴルフ選手権での活躍を誓いました。

四国中央地区防犯協会 四国中央警察署
新1年生に防犯下敷きをプレゼント



4月3日、子どもたちに安全な学校生活を送ってもらおうと、四国中央地区防犯協会（大西賢治会長）と四国中央署（藤原雅光署長）から市内20校の新小学1年生521人に下敷きが贈られました。下敷きには、犯罪に巻き込まれないための約束事が分かりやすく紹介されています。

市交通安全母の会
新1年生にお守りをプレゼント



子どもの交通事故防止や交通安全教育の普及に取り組む市交通安全母の会（高橋玲子会長）から、4月から市内の小学校に通う新1年生に、交通安全のお守りが贈られました。4月13日には中之庄小学校で贈呈式が行われ、同会から新1年生35人に心を込めた手作りのお守りが渡されました。

祝 教育DX推進自治体表彰受賞
GIGAしこちゅりの取り組みが高評価



3月13日、本市が進める先進的な教材の活用や生成AIを取り入れた新しい学び、公用スマートフォンを活用した全国初のDX環境が高く評価され、「教育DX推進自治体表彰」を受賞しました。この表彰は、教育DXに積極的に取り組む自治体に贈られるもので、本市の受賞は今回で2回目です。

本紙上で紹介できなかった記事や写真は、ホームページ「まちの話題」に掲載しています



写真右・三島南幼稚園（豊岡町大町）
同左・土居東幼稚園（土居町津根）



三島南幼稚園と土居東幼稚園が閉園 47年分の感謝を乗せてバルーンリリース

昭和54年に伊予三島市立三島南幼稚園として開園し、これまでに1637人の園児を送り出してきた三島南幼稚園が、令和8年3月末をもって47年の歴史に幕を下ろしました。

同じく昭和54年に土居町立東幼稚園として開園し、1548人の園児が通った土居東幼稚園も、その役割を終えました。

3月19日には三島南幼稚園で、23日には土居東幼稚園で閉園式が行われ、最後の卒園生や保護者、そしてこれまで園を支えてきた関係者が出席しました。式典では、これまでの感謝の気持ちを込めたバルーンリリースが行われ、色とりどりの風船が空へと舞い上がる様子を、参加者たちはそれぞれの思いを胸に見守りました。

更に、平成29年から休園していた土居西幼稚園と石川保育園も、同じく3月末をもって閉園となりました。

（株）ベストム へんろ小屋を無償塗装



3月17日から25日に掛けて、土居町蕪崎で塗装工事などを営む株式会社ベストム（山内一正代表取締役）が、中之庄町にある「へんろ小屋 しんきん庵 秋桜」を無償で塗装しました。

この活動は、「お遍路さんに気持ちよく利用してもらいたい」との思いから実施されたもので、年月とともに劣化していた木部が塗り替えられ、へんろ小屋は美しく生まれ変わりました。



挑戦で

未来を拓けるか

年度末が押し迫った土曜日の県民文化会館サブホール。初めて、自由民主党愛媛県支部連合会の定期大会に出席させていただく機会に恵まれた。党員ではないものの、県下各市町の首長さん方とともに来賓としてご案内を受け、壇上の末席に小職も連なった。

「未来は与えられるものではなく、自らの手で切り拓くものである。挑戦なき国に未来はない。守るだけの政治に希望は生まれえない。」力強く朗読された当日の大会宣言の中軸には、我が国政権与党の総理総裁が施政方針演説の締めくくりに語った「挑戦」への思いが据えられており、大いなる勇気を与えていただいた。

奇しくも、四国中央市政における小職の「挑戦」の出鼻が挫かれ、この「日本一の紙のまち」でありながらも「消滅可能性自治体」とされる我が町には「挑戦」や「希望」を可とする風土は損なわれたのか？と悲嘆に暮れた日から僅か二日後のことであり、先の衆議院議員選挙で絶対安定多数を占めた高市政権の偉大さをひしひしと感

逆風

満帆！

四国中央市長
大西賢治



「子どもたちの未来のために、挑戦をあきらめず、希望を求め続けよう！」との思いを強くし、県都松山を後にした。とはいえ、小職の未熟さや至らなさから多くの人々に迷惑をおかけし、人の心を傷つけて実害をも生じさせた事実を消し去ることができないのも現実である。

その日の夕方、公務を終えて川之江の商店街で開かれているイベントを覗きに行こうと、会場から少し離れた所で車を降りたとき、自転車で通りかかった小学校高学年の男子七〜八人に取り囲まれた。「けんじさんですね！」「この前給食一緒に食べましたね」「こんど僕らの担任になつてくれませんか！」眼を輝かせ、無邪気ながらも妙に丁寧な言葉遣いで銘々に話しかけてくる子どもたちに圧倒されつつ、「このまちの行く末を預かる者の一人として、この子たちの未来を拓くために、責任ある挑戦を続けなければ…」再び、そんな思いを胸に、自転車の後を追いかけて会場へ向かった。